環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト S-12

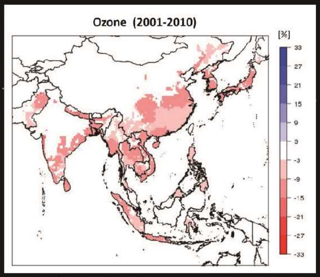
第 5 回公開シンポジウム

地球温暖化と大気汚染による影響の軽減に向けた新たな取り組み

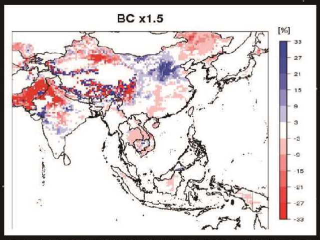
－短寿命気候汚染物質 (SLCP) の影響評価とその削減対策－

「短寿命気候汚染物質 (SLCP)」には、PM2.5 の一部である煤 (黒色炭素)、光化学オキシダントの主成分である対流圏オゾン、その対流圏オゾンの生成に寄与するメタンなど、気候に与える影響が大きなものが含まれています。そのため、SLCP を削減することは、環境改善だけではなく、地球温暖化を抑制する効果もあり、国際的な取り組みも行われています。

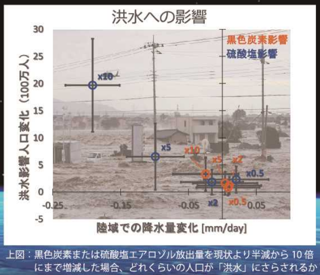
今回で最後の開催となる第 5 回シンポジウムでは、SLCP 排出シナリオの検討結果を始め、過去から将来にかけての SLCP 変化による地域・地球規模での環境・気候影響評価について、5 年間の研究成果を発表し、今後の展望を議論します。



上図：2001 年から 2010 年まで平均したオゾンによる水稲収量の変化率。広範囲に水稲収量が減少している。



上図：BC (黒色炭素) の排出量を現状より1.5 倍にした時の水稲収量の変化率。BC の排出量を増加させたことにより、水稲収量が減少する地域と増加する地域がある。



上図：黒色炭素または硫酸塩エアロゾル放出量を現状より半減から 10 倍にまで増減した場合、どれくらいの人口が「洪水」にさらされるかを示している。黒色炭素 10 倍で約 3 倍（300 万人増)、硫酸塩エアロゾル 10 倍で約 20 倍（2000 万人増)。

プログラム

「S-12 研究から得られた SLCP 削減による気候・環境影響と将来課題」
・中島映至 (S-12 代表、宇宙航空研究開発機構)

「アジア域における SLCP 関連物質による大気環境影響 - 過去、現在、未来 -」
・大原利眞 (国立環境研究所)

「気候変動と大気汚染を考慮した将来の排出シナリオ」
・増井利彦 (国立環境研究所)

「大気汚染物質による気候・健康・農作物への影響の評価」
・竹村俊彦 (九州大学)

「SLCP による地球水循環への影響」
・芳村圭 (東京大学)

総合討論
(司会：鶴田治雄 (リモート・センシング技術センター))

平成 31 年 1 月 11 日 (金)

東京大学　情報学環・福武ホール
福武ラーニングシアター(本郷キャンパス)

13：00 ～ 16：10

https://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/

参加費無料

参加申し込み：お名前（ふりがな)、ご所属を明記の上、メールにてお申し込みください。
申し込み期限：平成 30 年 12 月 25 日（火)
申し込み・問い合わせ先：s12_staff@aori.u-tokyo.ac.jp

主催：環境省環境研究総合推進費 S-12 プロジェクト 共催：東京大学、宇宙航空研究開発機構